時事新報代金の早達便

本社は時事新報代金送達の便を謀り内國通運會社と特約を結びたるに就き左記の地方より御拂入れの新報代金は同會社の貨幣早達便を御依托相成候得ば特別を左表の運賃より二割を引き且つ無配達賃にて送達可致候現行の郵便小爲替法にては三圓以下の金員を送達するに爲替料三錢郵券料二錢、書留料六錢都合十一錢を要する事なれ共今此の貨幣早達便を依れば五圓以下は只四錢の運賃のみにて送達し若し送金通知書を發する場合には右の運賃に揃書一葉の代金一錢を加へ悉皆の費用五錢にて事足るべきに付新報代價の拂入には最も便利ある法と存候

時事新報社

内國通運會社貨幣早達便取扱箇所

（追々箇所増設の筈）

東京	佐内町	同	武藏
同	武藏	同	熊ヶ谷
同	鴻ノ巣	同	上野
同	沼田	同	越中
同	富山	同	新潟
同	山城	同	京都
同	大津	同	坂ヶ
同	神戸	同	坂ヶ
同	松坂	同	伊勢
同	伊勢	同	四日市
同	安濃津	同	古屋
同	四日市	同	名古屋
同	尾張	同	熱田
同	岡崎	同	常陸
同	三河	同	水戸
同	遠江	同	掛川
同	近江	同	大津
同	長濱	同	濱ヶ
同	岐阜	同	長濱
同	大垣	同	上野
同	長野	同	信濃
同	岐阜	同	甲府
同	静岡	同	吉原
同	駿河	同	三島
同	伊豆	同	相模
同	小田原	同	廣澤
同	武藏	同	横須賀
同	上野	同	高崎
同	輕井澤	同	松本
同	上田	同	長野
同	垣内	同	陸奥
同	陸前	同	陸中
同	盛岡	同	青森
同	鹿角	同	秋田
同	仙臺	同	形森
同	梁川	同	肥後
同	郡山	同	肥後
同	讃岐	同	熊本
同	若松	同	福岡
同	須賀川	同	長崎
同	松山	同	博多
同	紀伊	同	小倉
同	長門	同	高松
同	伊豫	同	丸亀
同	和歌山	同	松山
同	赤間關	同	龜山
同	廣島	同	長崎
同	岡山	同	江取
同	備前	同	鳥取
同	備後	同	松江
同	出雲	同	因幡
同	白兎	同	柏木
同	桐生	同	栃宮
同	宇都宮	同	直江
同	新潟	同	富山
同	越後	同	越中
同	上野	同	沼田
同	澁川	同	高崎
同	前橋	同	越前
同	加賀	同	金澤
同	小松	同	福井
同	敦賀	同	長濱
同	彦根	同	石部
同	宝塚	同	大阪
同	枚方	同	函館
同	札幌	同	横濱

時事新報

集會條例第八條

日本の政黨は今後如何に成行くべきやとは尋常私席の間にも往々開く所の問題なり成程今の所謂政黨の中には大同團結あり改進黨あり自治黨あり中立黨あり保守黨ありて其數隨分少なからざるのみか各地方より至りて其政況を觀察するときは種々樣々の政治的團體ありて必ずしも以上枚擧したる黨派の主義を贊するに非ず思ひ〳〵に旗幟を立て春蘭の間に介立して途方に迷ふものも甚だ多く將來如何なる方向に進みて遂に何れの黨派に歸すべきや殆んど豫定す可らざるが如し蓋し國會開設の準備として政治を議論するは固より不可なき次第なれども唯今日の如く支離滅裂の姿を成して互に小事を爭ひ日に其心を動搖して堵に安んぜざるの有樣なるは國會に國政の爲めに不利のみならず政黨の爲めにしても國會準備の効用をなすことを能はざるべし或は雨降りて地固まるの理に均しく無數の小黨互に衝突して其餘を喪はしたる後に大は小を併せ強は弱を倒して他年一日歸一するやもわらん然れども是は前途甚だ遠遠にして明年以後國會の幕を擧ふの道あらず又或は黨派の後に於て實際の事件に付き輿論の分裂を來すの恐なきに非ず上より甲乙相鬩ぎ下より至るまでも有る可けれども本來政黨なるものは何れの國を問はず至極當然なるものにして今の英國の如き自治事件を希別、その他に至ては主義の所在も甚だ怪しく唯毛色の相類似したるものを友とするは恰も政黨の實際たるが如し左れば事實の得失論を標準として向背を決せんなど言ふは唯是れ理論上の言にして政黨運動の內實を察せざるものと云ふ可きのみ若しも毎度起るべき大小の事件に付其當否得失を判定して去就を決せんとするに於ては其身は恰も政黨以外の小政黨にして輕きさと浮萍の如く忽ちにして甲黨に連なり忽ちにして乙黨に左袒し其運動に常ある可らず或は政治家に鬼神の明を以て不變の說を定め終始その行路を違へざる者あらば笑んとて之に依賴す可しと雖も本來政治は俗世界の俗事なれば之を當る政治家も亦俗物なして臨機應變を旨とし微頭微尾一樣の說を守る可らず又古來みれを守りて其言行の一致したる事例も甚だ少なし故に政黨の本色は主義の細目を問はず大凡そ西とか東とか大體の方向を定めたらば漠然の際に一個の主張を鼓きて以て一方に運動するまでのみにして事の內實は何れの國も皆然らざるはなし然るに我政治社會の實際は前陳の如く三々五々の小黨相對して睨合ふのみの有樣なれば今よの風を改め眞の大政黨を形造るの見込あるや否や其方法は如何にして可ならん歟是れ即ち今日問題の起る所以なるべし

英國に於ける政黨の組織を案するに各地方毎に自由黨員の存する所は自由黨の會所あり保守黨員の存する所には保守黨の會所ありて此地方と彼の地方と同じく自由黨なれば双方の會所役員より互に通信往復して脉絡を通じ一は二を併せ又三は合し全國の自由黨は悉く右の方法によりて連結し層々相倚りて終に首領の本陣に歸一するといふ故に之を分析すれば無數の團體より成るものなれども結合の區域は甚だ廣くして全局より之を盛見すれば保守黨あり自由黨なり將た聯合自由黨なり國會の議場に黨名を擯ふ者は其數至て少なく隨て其運動は頗る圓滑なるを得るものなり左れば今若し日本に政黨を形造らんと欲すれば從來既に成りたる地方の各政治團體を連結するの工風は至極肝要にして此要を缺くときは政治社會は群雄割據遂に統一するみと能はざるべし而して今の日本は此の趣向を實施するみ便利なるや否や

憲法既に發し國會將に開けんとするの今日に於ては集會條例の實際に不都合あるみと夥しく何々の相談會は勿論藩居茶席にも居出を必要とするみとありて到底みの儘に保存するみと能はざるべきは何人も爭はざるものなれども就中立憲政治に必要なる政黨の組織を遮ぎる事項を講談論議する爲め其旨趣を廣告し又は委員若くば文書を發して公衆を誘導し又は他の社と連結し通信往復するみとを得ずと結末一句他の社と連結し云々は正に前記したる英國政黨の筆法を許さゝるものなり小黨を合併して大黨たらしめざるに由るものには非ざるか、立憲の精神を西洋の文明國より取りて其方法を同うせざるは我輩の最も了解に苦む所なり今後遠く之を改正せざるに於ては政黨の組織先づ以て見込なしと云はざる可らず殊に我國にては封建の殘夢未だ醒めずして天下に忘るゝ能はざる政治家も遠く其故郷を忘るゝ能はず聯もすれば關東と云ひ東北と云ひ中國と云ひ九州四國と云ひ其地方に偏して區劃を設け政論爭即是れ鄉國爭とも云ふべき有樣なる上に法律を以て直に他と連信往復するを許さゞるとありては何として能く關門を撤して天下を友とするとを得んや所謂道に横はるの障害にして我輩は集會條例の大改正を望む中にも第八條は速に刪除せらんと希望に堪へず或は云ふ政府は此條例を設けて大政黨の組織を防ぎ以て國會の勢力を過大ならしめざるの趣向ならんと臆測する者あれども是は齊東野人の言にして既に國會開設を約束したる政府が何を苦んで斯る姑息の策を取らんや況んや公然大政黨を表發せざるときは政治社會の運動は常に隱微に陷るを免れずして詭變測り難きに於てをや政府は決して弊を奬ふの愚をなさゞる可ければ我輩は刮目して同條例の成行を見んと欲する者なり

雜報

○露京駐劄米國公使の死去　有名なる米國ノースアメリカン レヴュー（雜誌の名）の持主兼主筆記者として其名著しく去三月大統領ハリソン將軍の爲め露京駐劄の米國公使に任せられたるアレン グーンダイク ライス氏は去月十五日出帆の汽船に搭し米國を發して任地に赴くべく決し數日前より其用意を調へて出帆の日を待ちたりしに同十一日咽喉炎病に罹り一時は病勢危篤なりしも同十四日に至り大に快方に赴きしかば醫師の勸告に從ひ豫期の日に出立するみとを見合せ同二十二日出帆の汽船に乘組む筈なりしに翌十五日の夜より容體遽に變じ十六日早朝遂に長逝したりと云ふ抑もライス氏は米國中に富有なる記者の一人にして年齡尚は若く本年三十六歳なりと雖ども既に二百萬弗以上の財產を貯蓄したり氏は壯年の頃より英、佛、獨に遊學し學成るの後歸國して著述に從事する傍らコロンビア法律學校に入りて法學を修めノース アメリカン レヴュー を買ひ取るに及んで專ら同雜誌の編輯に從事し屢々名論卓說を揭げて世人の注意を喚起し米國文壇の一雄將と仰がれし氏の文學社會に名を顯はせしは千八百七十六年後の事にして曾て故 アブラハム リンコルン氏の傳を著し且つ屢々諸雜誌等に投書せしみとあり千八百七十九年には自ら發起して中央亞米利加及び墨西哥の古代の文明を詮索する爲に遠征隊を組織せり而して氏は文學社會に其名を知らるゝのみならず熱心なるレパブリカン黨員として常に活潑なる運動をなし昨年大統領改撰の際にも亦氏の能力を富びを知り公使の榮職を與へしに未だ外交官の技術を現はすに至らず享年僅に三十六歳を一期として鬼籍に入りたるは眞に悲しむべきの至りと云ふべし因に記す氏は未だ結婚せざりしと

○米國牧場及び農家の實況（一昨日の續）

宇都宮仙太郎氏寄送

余がホワイト氏の知人を尋ねてアロラ府を出立せしときの旅裝を記るさんに先づ頭には時候晩れの麥藁帽子を戴き體には日本出立の折り新調せしも當時既に鈕も脫し袖裏も破れたる洋服を纏ひ足に穿てるは米國百姓用の長靴なりしもズボンの下に隱くせしみとあれば左程に見苦しからざりしなるべし又途中の食物に供せん爲め汽車旅行中食ひ殘せし牛肉の鑵詰を首掛の革囊に納め出立せしは七時頃にして流葉報の汽笛は旅客の耳を聾する計りに響き渡りしに余は田舍道に迷はんみとを恐れ鐵道線路に沿ふて進み行けり當時暑は騷かなる秋の夜なれば河邊に歩みて清き流に渴を忘れ芝生に横はりて四方の景色を眺ひれば塵世の苦をも忘るゝならんと思へども余は左る氣樂の身にあらねば只管行途を急へ伴事場の近かんみとをのみ願ひたりしに午後二時頃より俄に陰模樣變じて雷天量を流し雲間に閃く電光は左なきだに心淋しき旅客の肝を動し露く雷は大雨を送り來り耕念おく遊び歳東洋の孤客宇里遠き汽車道無情の空の晴車場に達するに玉獨黍の外は空屋もわらんと精神を勵ましに中央は俗に所れば雨天は爲に雜草肩をありし辛うじて日は西山に傾雨を冒して徒長靴を充ち其暮れて空鬱や饑渴の爲め自乞はんとて路ば建築の模樣次の農場に到て或は門守ら丐氣を勵ま進み難くおりしが其音の微りて門を開くく筈なれども覺しき所に到せり余は故に主人は泊を許し難き得べしと答へ徒歩し隣家の釋せり余は前願ひしに主人はたり余が食腐たる牛乳なんを呑まざりしかねし故余はかば彼等は馬舍に到二階へ床を敷られ馬屋に敷ども之に應り牧草を集余が一禮して恰も玉床に謝してデカ林檎數個を云へば大層主人と異なり主人と飲食之に愉快へて送るを掃除し主人の旅行に朝仕事をなし

○草莊旅（第

利根川を下五丁餘にして百六十餘戶には大に減じ

の變遷に塩

球町會議員

は僅に三名

○廣告略語　運搬船略時刻　●明治　●明治　●明治　●明治　●大時　●大時　●大時